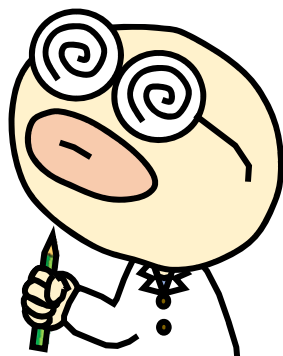


REHSE勉強会 REHSeminar

レゼミナール

2016年
REHSEmi
第4回!

大学等研究機関や企業が抱える様々な課題について、集中セミナー形式の勉強会を開催します。本勉強会は、テーマに沿った頭出しとなる講演や話題提供を行った後、皆でディスカッションを行います。



第4回

創造性と自主的 リスク管理のバランス

2017年1月26日(木)

13:30~16:30 名古屋大学東山キャンパス
環境総合館 1Fレクチャーホール

第1回 (平成28年4月28日(木) in 東京)

「実験研究におけるリスクアセスメントとは」
(keyword: 法対応、実験リスク、教育)

第2回 (平成28年7月28日(木) in 大阪)

「合理的な実験室計画の考え方」
(keyword: 多様性、非正常性、フレキシビリティ、共有)

第3回 (平成28年10月31日(月) in 東京)

「情報・コンテンツの共有と活用」
(keyword: 教育手法、事故事例、安全管理体制、外国人)

第4回 (平成29年1月26日(木) in 名古屋)

「創造性と自主的リスク管理のバランス」
(keyword: 保護具、相互巡視、OJT)

集中セミナー形式の勉強会をシリーズで開催!

第4回テーマ

「創造性と自主的リスク管理のバランス」

研究の価値を評価する上で、新規性や独創性が重要な指標となることは言うまでもない。新理論の提唱、新手法の提案、新物質の発見といった、これまで誰も行っていないことを初めて見つけ、それを実証することにこそ、研究の価値や醍醐味がある。そこには試行錯誤的な探索もあるだろうし、失敗もつきものである。特に、過去に誰もやったことがない実験では、何が起るか正確にはわからない以上、そこにリスクが伴うことは必然である。

研究のアクティビティを損なうことなく、安全に研究を遂行するためには、創造性と自主的リスク管理とをうまくバランスさせることが重要である。そのためには、個々の研究者が自分の研究に伴うリスクを正確に理解し、そのリスクに対して適切に対応する能力を備えることが不可欠となる。

世の中には様々な安全基準が存在しており、それら基準の遵守を安全のクライテリアと置き換えた議論がしばしば見受けられる。しかしながら、研究の分野における合理的なリスク管理のためには、単なる基準の盲信ではなく、その基準自体の持つ意味や合理性についてもよく考えておく必要がある。例えば化学物質について「何がどのような状態にあるとどう危険なのか」を、その物質を扱う研究者自身の知識や経験、科学的根拠に基づいて正確に理解し、客観的に評価することができるならば、リスク管理としてはより本質的であると言えるだろう。

第四回の勉強会では、創造性と自主的リスク管理のバランスを考える上で重要となる「許容されるリスク」をテーマとして取り上げ、様々な安全基準が持つ意味や合理性に関する講義の後、実験研究における合理的な許容リスクについて全体討議を行う。

◎講演 「基準値という名の権威」 山本 仁 先生（大阪大学教授）

◎ディスカッション テーマ 「実験室における許容リスクとは」

講師・コーディネーター：大島義人（東京大学教授）、山本仁（大阪大学教授）

参加申し込み

- 応募者多数の場合、先着順で締め切らせて頂く場合があります。
- 参加申込方法：ご所属とお名前を事務局メールアドレスまで送付ください。
- 参加費：資料代として3,000円（会員）、5,000円（非会員）
※当日、会場にてお支払いください。



NPO法人 研究実験施設・環境安全教育研究会

Research for Environment, Health and Safety Education

問い合わせ先 REHSE 事務局

E-Mail : jimukyoku@rehse2007.com

TEL : 080-4383-2007

〒277-8563 千葉県柏市柏の葉5-1-5

環境棟468号室 東京大学 大島教授室内